

## 社長メッセージ



### <<医薬品事業拡大への新たな挑戦に向けて>>

日本ケミファは2005年度を初年度とする中期3ヶ年計画を2005年4月にスタート致しました。2007年度には高尿酸血症治療と尿路管理の必要性を広く普及することにより、主力商品の一つである「ウラリット」（尿アルカリ化療法剤）が痛風治療だけでなく、メタボリックシンドロームと尿pHとの関連性にも注目を集めており、市場拡大が期待されることから、「ウラリット」の売上倍増を目標に、また国の政策として推進されているジェネリック医薬品の様々な使用促進策を背景に、ジェネリック医薬品の売上を2倍以上の年商100億円突破を目標に、「ウラリット」と「ジェネリック医薬品」の戦略展開を進めてまいりました。しかし、

1. 「ウラリット」倍増への外部環境の新たな変化がおきつつあること、
2. また予想を超えるジェネリック医薬品の強力な使用促進策が次々と施行され、目標の100億円は1年繰り上がって、2006年度には達成の見込みが立つ勢いで成長しつつあること、
3. 更に、復配も中期経営計画が終了する2008年3月期をもって実施する計画でしたが、2007年中の復配を目指していること、

など、外部・内部環境が大きく変化してきたことから、環境変化に迅速な対応をすべく2007年度を新たなスタートとする中期経営計画を策定し、医薬品事業の更なる拡大を目指した挑戦に取り組む準備を開始致しました。

### <<高尿酸血症治療の必要性普及を目指して>>

生活習慣病対策の一環として、国のメタボリックシンドローム対策が示され、2008年からは40歳以上の健康診断で血清尿酸値が検査必須項目となることにより、高尿酸血症潜在患者の顕在化がいよいよ実現しようとしています。一方、2006年1月、日本肥満学会から「肥満症治療ガイドライン2006」が発表され、メタボリックシンドロームのマーカの一つとして高尿酸血症が新たに取り上げられ、高尿酸血症治療の必要性の普及に大きな

きっかけとなっていくことが期待されます。

### ●2006年には臨床研究がスタート！

日本ケミファが共催する「高尿酸血症・メタボリックシンドローム・リサーチフォーラム」の会員の先生方を中心に、2006年8月より高尿酸血症とメタボリックシンドロームとの関係、更には、酸性尿とメタボリックシンドロームの関係などの臨床研究がよいよスタートすることとなりました。

すでに2006年3月からは、尿酸生成抑制剤（ザイロリック）と尿アルカリ化療法剤（ウラリット）による治療に関する併用意義の臨床研究がスタート致しました。更に、20万人の測定データによる尿PHと血清尿酸値の関係に関する分析研究が進められており、2006年秋以降には研究成果の論文発表や学会発表が期待されております。

このように高尿酸血症治療の必要性の普及や高尿酸血症患者の顕在化、尿酸産生抑制剤との併用に関する研究の動き等は、早ければ2007年秋以降から2008年には、成果として期待できるものと考えております。

2005年度はアルカリ化療法剤「ウラリット」の成長には、まだ勢いを感じられない状況にはあるものの、2006年10月からは「ウラリット」は他社との並売を解消し、単独販売に移行することにより売上の拡大が見込めるなど、内部・外部環境の変化に迅速に対応した戦略の見直しを図り、「ウラリット」の更なる成長を目指して、2007年度をスタートとする新たな中期経営計画を策定中です。

### <<急成長を目指すジェネリック医薬品の戦略強化に向けて>>

日本ケミファでは「安価」で「品質・有効性・安全性」に優れたジェネリック医薬品に、医療関係者や患者さんが求める様々な「くすりの情報」を加えて、患者さんが安心して使用できるジェネリック医薬品の提供に努めております。

地域の中核となる病院にジェネリック医薬品が採用されることは、周辺地域医療機関のジェネリック医薬品採用の波及効果を増大し、ケミファが提供するジェネリック医薬品に対する医師・薬剤師、そして何よりも患者さんへの信頼がますます高まっていくことと思えます。

一方、ジェネリック医薬品の使用拡大によって患者さんの医療費負担の軽減や、独立行政法人化した国公立病院をはじめとする病院経営の効率化にも貢献できると考えています。

### ●DPC制度導入普及のための研究会をスタート！

日本を代表する基幹病院（国公立病院や大学病院など）を中心に、DPC導入病院は2006年7月には360施設となり、その80%以上の病院に日本ケミファのジェネリック医薬品が採用されております。DPCの導入を検討している多くの病院を対象とした導入のための支援・促進を図るために、日本ケミファが主催する「DPCマネジメント研究会」を2005年11月に立ち上げ、DPC導入を推進する医療関係者と協力して研究会支援活動を2006年2月よりスタート致しました。

## ●代替調剤の普及拡大を視野に調剤チェーン薬局への取り組みを強化！

医薬分業によって調剤薬局における薬剤師さんが、ジェネリック医薬品使用促進への重要な役割を担ってくるとの考えから、流通戦略として2004年以降日本調剤をはじめとする全国主要調剤チェーン薬局との連携を強化する取り組みにも着手してまいりました。

当社のジェネリック医薬品普及への戦略展開と併行するかのようにより、医師が発行する処方箋様式の変更や、後発品情報提供に対する調剤薬局へのインセンティブの充実など、予想を超えるスピードで、国のジェネリック医薬品使用促進策が打ち出されてきたことも大きく影響して、当初の中期経営計画では3年後の2007年度を目標としていたジェネリック医薬品の売上100億円達成が、2006年度には手の届くところまで到達する見込みとなってまいりました。このような背景から更なる売上拡大を果たすための戦略構築が必要との考えのもとに、2007年度を新たなスタートとする中期経営計画を策定中です。

日本ケミファは、「ウラリット」や「ジェネリック医薬品」の使用拡大を通して、生活習慣病の早期治療と予防の普及、医療費の負担軽減や病院経営の効率化に貢献することによって社会に変化をもたらし、膨張する国の医療財政の負担軽減にも貢献していきたいと考えております。

その結果として安定した利益を創出し、企業価値を高めていくことにより、様々なステークホルダーの方々の期待に応えていくことを経営の重要課題として取り組んでまいります。そして、広く社会から必要な会社と認められる企業を目指して努力としてまいりますので、今後ともご支援をよろしくお願い致します。

山口 一城

代表取締役社長 & CEO

### ☆☆用語解説☆☆

DPCとは、米国で実施されているDRG・PPSを参考にして、新たに開発された日本独自の診断群分類のことで、患者ごとに疾病名、年齢、意識レベル、手術・処置の有無などの治療行為を組み合わせたもの。